The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	歌
Author(s)	林田, 良平
Citation	懐徳. 1929, 7, p. 90-91
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88798
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

癡頑幸上將墳邊。及老常懷孝未全。感泣拜來新璽令。先呈考妣兩墳前。

今茲六月華城奉迎龍駕。歡極而謹賦。

炭翁　林田翠

晴日薰風六月天。華城草木帶祥煙。歡聲滿路迎
龍駕。長記昭和己巳年。

東光院觀胡枝花

院在浪華北三里、以胡枝花有名、俗呼曰萩寺、

放生池上一橋斜。直到山門秋可嘉。露白風清月明夕。紫瀾滿地萬叢花。

四月廿九日修學院離宮拜觀のをりに

林田炭翁

木立みな春のめぐみに若葉してみ園をきよくいろどりにけり

鷺森神社にて

松なみ木つゞくなはてにおそざくらひともとにほふ春をのこして

山邨雜詠

林田良平

ひぐらしの啼くね涼しみ里ありく空にはあはき夕月も見ね

蜩にふたゝびくれば法師蟬のこゑもせはしく啼きかはり居り
ひぐらしのすでに果てしとおもふ日の夕影山に只ひとつ啼く
秋もはや瑞穗垂穗の早稻の穗にふとりけるかもしこ蟲らは
さら〳〵と葉風かわける眞晝日のいなごとる手に稻の花ちる
わが目をば遁れ得たりとさかしだつ葉裏の蟲あしは見ねつゝ
あたへたる蟲とびはね追ひかくる鷄の眞秋の花こぼれけり

修學院拜觀

寺部君子

行幸さへまれなりきてふ外宮のむかしかたりをきくもかしこし
大君は神にしますを人言のまゝにならしゝよもありしかな
大宮のありし昔をおもふたに涙さしくむこゝろこそすれ
上の茶屋下のお茶屋とおごそかにときあかすなりみやもりの人
とつ宮の上お茶屋にのぼり來れば菜の花十里みはらしのよき
人ら皆かしこみ行くを大庭の眞砂さく〳〵音たつる哉
大石の鳥居くゞればみやしろは青葉若葉にかこまれてあり
一本の大木の櫻しろ〳〵と若葉の山に咲きおくれたる